

三中だより

令和6年度 10月号



令和6年10月25日発行
荒川区立第三中学校
(学校通信 No. 9)
校長 小柴 憲一

1年生の優秀な自治力

9月25日(水)～27日(金)に1年生が清里移動教室を実施しました。

1日目は、ほうとうづくり体験、学園をゴールとしたオリエンテーリング、夜の陶芸体験をし、2日目は富士山世界遺産センターの見学をしたあと青木ヶ原樹海を班ごとに散策し、夜はレクリエーションを行いました。3日目はぶどう狩り40分間食べ放題のあと帰路につきました。

私は、①班行動をするとき班がまとまっているか、②しおりに書かれた時刻通りに行動できているか、③部屋の前の上履きやトイレのサンダルなどを常にそろえているか、④それぞれが自分の係の仕事を責任をもって成し遂げているかななどを観察しながら評価しますが、何よりも一番重要視する活動はレクリエーションです。

レクリエーションの時間だけは、教員ではなくレク係が内容を考え、事前に準備をするとともに、当日の進行計画を立てて臨むものです。さらに、他の生徒はレク係の進行に合わせて、レクの内容を楽しもうとしなければ、楽しい雰囲気はできあがりません。さらに、レクリエーションが終われば、興奮した気持ちを抑えて、落ち着いた学園生活に戻る必要があるのです。



つまり、唯一、子どもたちだけに任された時間帯であり、子どもたちの自治の力で成功にもできるし失敗にもできるのがレクリエーションの時間なのです。

今回、レク係の子どもたちの司会進行の説明は、決して全員が上手なわけではありませんでした。しかし、参加する子どもたちが、レク係の意図するところを察して、隊列を組み直したり、場所を移動したりなど、実際の行動で協力していました。そして、レクを楽しもうと笑顔で参加し、応援したり笑ったりなどとても良い雰囲気をつくっており、見ている私も微笑ましく感じました。さらに今回驚いたのは、最後にレク係が全員前に出て、「これでレクリエーション大会を終わります」と閉会の宣言をしたとき、拍手とともに、何人かの子どもたちがレク係に対して「ありがとう！」と言っていたのです。

こんな終わり方は初めて見ました。

1学期の実施ではなく2学期の実施なので、ある程度人間関係もできているでしょうし、三中の自治活動にも参加しているので、組織力は少しはあるとは思っていましたが、ここまで自治力として養われているとは思っていませんでした。

これからも期待できる1年生です。

生徒会組織の改編と引き継ぐべきこと

10月11日(金)に生徒会役員選挙があり、新本部役員が選出されました。

これまで、3年生が会長であり、3年生の力が強く発揮されていましたが、新本部役員からは3年生の姿が消え、2年生の会長を中心に1年生も加わった組織で生徒会運営をしていくことになります。各専門委員会も、委員長は2年生となって、1・2年生が主体となって専門委員会運営をしていくことになります。



ただし、本校では後期生徒総会を実施していません。したがって、本部役員を始めとして各専門委員会は、5

月2日(木)の生徒総会で可決された、活動方針や計画に従って運営していくことになるので、前期の引き継ぎ事項や申し送り事項を継承していけばいいのです。

ということは、前期の生徒会長や専門委員長が、いじめ撲滅運動のスローガン「いじめの視聴者をなくそう ～画面の先の話じゃない！～」を達成するために宣言した活動は引き継いでいく必要があります。

是非、前期生徒会本部や各専門委員会が取り組もうとしたことを、単なる一時的なパフォーマンスに終わることがないように、現実的な行動に移してほしいと思います。

以下が、後期生徒会本部役員です。

<令和6年度 後期生徒会本部役員組織>

役職	学年	氏名
会長	2年生	武藤 琉花
副会長	2年生	犬上 直人
副会長	1年生	柴山 灯里
書記	2年生	岡寄 愛
書記	1年生	橋爪 美来
庶務	2年生	城崎 千寧
庶務	1年生	服部 亜依佳

教員が入れ替わっても変わらず存続する第三中学校

「三中だより9月号」で同じタイトルの「教員が入れ替わっても変わらず存続する第三中学校」を掲載しました。

そこでは、「生徒会本部と各専門委員会が自主的に活動するので、各学級の係や班活動も主体的・積極的になっており、それらの活動に対する信念が引き継がれていること」「だから教員が何人入れ替わっても、三中の子どもたちは健全に生活できる環境を自分たちでつくりあげていること」をご紹介いたしました。

今月19日(土)に開催した輝汐祭(舞台の部・合唱コンクールの部)を鑑賞された保護者の皆様は感じられたかもしれませんが、「教員が入れ替わっても変わらず存続する第三中学校」の背景となる別の側面に気付かれたのではないのでしょうか。

合唱コンクールだけではなく、各演目や鑑賞態度で2年生は1年生に、3年生は1・2年生に上級生としてのすごさを示しているのです。

3年連続で経験する学校行事は輝汐祭の他に運動会もありますが、そのような行事で上級生が下級生に「三中とはこういうものだ」という学級・学年の団結力、盛り上がる時と静粛になるときのけじめをつけた行動、自分の責任を果たす態度などを見せつけることが伝統を継承することになるのです。

特に、3年生の姿は1・2年生の憧れとなり、1年生にとっては来年になったら3年生に近づこう、2年生にとっては来年は今の3年生を越えようという目標になり、仮に指導する教員が変わったとしても、同じように毎年の学校行事は同じように成功に導かれ、上級生が一段と輝くことになるのです。

これが三中の子どもたちの力であり、9月号の繰り返しになりますが、「子どもたちが紳士・淑女に成長していく三中」「互いに居心地を良くしようとする三中」「団結するときに強く思いを一つにする三中」を子どもたち自身がつくり上げていってくれているのです。



3年生の進路決定への本格的な時期に突入

輝汐祭(舞台の部・合唱コンクールの部)が終わり、いよいよ3年生は進路決定に向けてそれぞれの戦いが本格的になってきました。これは自分との戦いでもあります。

今までは理想に向かって努力してきたことと思いますが、いよいよ現実から目を背けず、中学校卒業後自分にとって最も適した進路は何かについて考えていかなければなりません。

「現実から目を背けず」とは、いわゆる合格の可能性のことです。

理想を追求し続けても、不合格になれば身も蓋もありません。「社会を構成する一員」に近づくためには、現実を見据えて最高でなくても最善の生き方をする姿勢が必要であり、人生の中では幾度となくそのような岐路に出会うことがあるでしょう。中学3年生という発達段階で「最高でなくても最善の道」を考えることは大変困難なことではありますが、いよいよそのときが来たということです。

「最も適した進路」とは、高等学校進学を志望している場合、高校3年間を有意義に過ごせるかがポイントになります。それは、単に学力だけではなく、特色あるカリキュラム、学校行事、生徒会活動、校舎・校庭などの施設・設備、近隣の環境、通学時間など様々あります。これらを把握するためには実際に行ってみなければ分かりません。学校説明会で説明を受けて施設見学をした

り、文化祭などでその高校の学生の姿を見て雰囲気を感じたりすることにより、学力とは異なるその学校の良さを感じるでしょうし、逆に良さを全く感じなかったら適した学校ではないということなのです。

それらの結果、第1志望校、第2志望校、・・・と出てくると思いますが、ここからはテクニックです。先日の親子進路説明会で詳しく説明があったかと思いますが、都立第1志望の場合でも私立高校の併願優遇制度を活用するとか、私立第1志望の場合でもいわゆる滑り止めのために都立高校の学力検査に出願しておくとか、あるいは公立・私立双方とも併願優遇制度を設けている学校に出願しておくなど様々な方法があります。

これらは、来週から始まる三者面談で学級担任とも協議することになることと思いますが、あくまでもお子さんと保護者の方の意向が最優先となりますので、ご家庭で方向性をまとめておく必要があります。

そして、一番重要なことは、お子さんは大人が思う以上に危機感や緊張感をもっているということです。子どもによっては「これで自分の人生が決まってしまう」とまで思っていることでしょう。また、「この学校に進学すれば親が喜ぶんだろうな」と保護者の思いや願いまで気遣って悩んでいる場合もあるのです。

進路指導は学級担任でも様々な視点から気を遣うデリケートな指導です。三者面談を終えた学級担任から聞く多くの内容は「あの子の場合は、本人も保護者も考えは一致していて合格の可能性の高い〇〇制度を利用して受験するようです。」という所見なのですが、ごく一部ではありますが「あの子は親のために第1志望校を決めているようです。本人の第1志望校は違うようです。」「あの子の家は父親・母親・本人がみんな違う考えで、本人の希望は聞いてもらえていないようです。」という所見を聞くこともあり、一部のお子さんは深い悩みを抱え、ときには受験日が近づくにつれて自暴自棄な行動をとることもあるのです。

3年生の保護者の皆様、どうかお子さんの話をよく聞いてあげていただき、可能性と最善策をお子さんが分かるように説明していただき、どのようなテクニックを使って受験していくかを一緒に考えてあげていただきたく存じます。

3年生とはいっても、まだ子どもですから。

お知らせ

- 第68回東京都特体連総合体育大会 陸上競技大会において、以下の成績を収めました。
3年女子走り幅跳び 第1位 中島 有彩 記録:3m40cm
- 10月20日に開催された荒川区消防団合同点検ボランティアに、以下の子どもたちが応募しました。
1年 掛川 大輝、林 亜美佳、潘 欣怡、長谷川 快、安本 汐良、石井 諒佑、落合 茜、
児玉 こまち
2年 大霜 優姫
3年 諸岡 遥斗、山崎 嗣生
- 荒川区中学校バレーボール新人大会において、以下の成績を収めました。
第3位
- 荒川区中学校ソフトテニス秋季新人大会において、以下の成績を収めました。
女子団体戦 第3位
女子個人戦 第3位 井上 乃々蘭・島尾 恵真 組
- 荒川区秋季新人大会バドミントンの部において、以下の成績を収めました。
男子シングルス 第1位 杉谷 天稀
第2位 佐藤 壮馬
男子ダブルス 第3位 坂本 京翼・辻 陽輝 組
女子シングルス 第3位 小倉 菜々子
男子団体 第1位
- 荒川区読書感想文コンクールにおいて、以下の成績を収めました。
佳作 1年 鈴木 悟志、高羽 郁奈、諸星 輝飛